

令和元年6月25日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03040

研究課題名(和文) 19世紀後半期における世界交通革命の進展と日本・開国・開港の再考 -

研究課題名(英文) Traffic Revolution in 19th Century and Modern Japan

研究代表者

小風 秀雅 (kokaze, hidemasa)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：90126053

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：幕末期日本の開国・開港の世界史的意義を再検討し、欧米側にとっても、日本の開国・開港が19世紀中葉における交通革命の成立と進展において重要な役割を果たしたことを、外交史的視点から解明した。

開国は太平洋横断汽船航路の開設というアメリカの個別利害に止まらず、地球を周回する交通路を実現することで、世界のグローバル化を実現した。また、当時東アジアで唯一の産炭国であった日本が自由貿易に門戸を開いたことにより、欧米と東アジアを結ぶ遠洋定期汽船航路の維持拡大を推進し、グローバル化を強固なものとする機能を果たした。

以上、日本の開国・開港と19世紀世界システムの形成は表裏一体の関係にあったのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本史の視点からでは、受動的な側面しか見られてこなかった幕末の開国・開港を世界史的視野の中で捉え直すことにより、世界史視野の必要性を具体的に提示した。

また、支配・従属の視点から世界システムの構築を論じてきた欧米の研究で完全に見落とされていた日本の開国・開港 = 世界システムへの参入の重要性を喚起し、19世紀のグローバル世界の成立を論ずる際に、東アジアを除外ないし軽視してきた従来の視点の限界を指摘することにより、グローバル世界の形成を欧米側の視点のみならずアジアの視点を含む必要性を提起した。

研究成果の概要(英文)： This study reexamined the historical significance of the opening of Japan and its ports at the end of the Edo period. It also clarified, from a viewpoint of diplomatic history, that the opening of Japan played an essential role in the establishment and progress of the traffic revolution in the middle of the 19th century. The opening of Japan not only met the individual interests of the United States in the establishment of trans-Pacific steamship routes but also realised the globalisation of the world by providing traffic routes around the earth. Besides, Japan, which was the only country in East Asia to produce the amount of coal at that time, which promoted the maintenance and expansion of the ocean liner service linking Europe, the United States, and East Asia and fulfilled the function of strengthening globalisation.

In sum, Japan's opening of the country and ports were inextricably linked with the formation of the World System in 19th century.

研究分野：近代日本国際関係史

キーワード：交通革命 世界システム 汽船海運 大陸横断鉄道 世界周回ルート 高島炭鉱

1. 研究開始当初の背景

(1) 開国に関する研究は、主に列強の動向から見る国際的契機に着目するものと、対応を迫られた国内的契機から見るものの、大きく二つの傾向がある。しかし、1960年代までの研究の多くは、和親条約と通商条約は「ペリーの和親条約(1854年)とハリスの通商条約(1858年)という初発の条約は、あたかも自明の前提ないし「与件」として取りあつかわれていた」(引用文献①)。その後、石井孝、加藤祐三らによって、日中の条約の比較を含めた不平等条約体制史として外交史的研究に着手されたが、本研究開始当初においても、開国に関する研究は、専ら国際的契機を日本側の視点から論じており、アメリカ側の対日戦略についての実証的研究はほぼ皆無の状況であった。

(2) しかし、和親条約・通商条約ともに、アメリカ側の主導によって締結されたことを考慮すれば、国際的契機という視点においては、アメリカ側の戦略について明らかにする必要がある。和親条約の締結(開国)は、欧米の国際体系への「一元化」の起点である、という視点を明らかにすることが重要な課題として浮上したのである(図書②③参照)。

そうした状況の下で、筆者はこれまで、この視点を、1850~70年代に進展した交通革命、及び日本を含む東アジア地域における不平等条約体制の成立、の二つの側面から具体化しようとしてきた。

上記のような研究を基に、本研究に於いては、これまでペリー派遣の目的とされてきた理由のうち、対中貿易ルートの確保に着目し、この問題を国際関係史として位置づけるべく、新たに二つの視角から解明することを目指した。

2. 研究の目的

(1) 第一は、太平洋横断汽船航路の開設と日本の開国の意味が、世界史の文脈の中で明確にされていないため、雑誌論文①を基礎として、アメリカの対日戦略を明らかにするなかで、日本の開国・開港を再検討することである。

(2) 第二は、アメリカの対日開国戦略のなかで重要な、日本に対する石炭供給の要求の背景を明らかにするとともに、交通革命の進展において、日本産炭が果たした役割を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 第一については、アメリカ側の公文書およびペリー関係の歴史史料を分析し、ペリー艦隊派遣に至る対日政策決定過程を、1848年のカリフォルニア獲得時から連続的に明らかにすることが必要であった。そこで、アメリカ議会文書、国務省・海軍省公文書、ペリーの報告書・日記・伝記を調査し、アメリカの政策決定過程を解明することとした。

- (2) 第二については、外国船に対する日本炭の供給の実態を解明する必要があるので、最優良炭とされる高島炭の開発状況を明らかにすべく、佐賀藩史料、明治政府の外交文書、高島炭鉱経営史料を調査した。また、石炭供給は日本のみならず上海、香港などでも行われたため、輸出状況を解明すべく『通商彙纂』などの外務省・農商務省史料を調査した。また、日本および上海のイギリス外交文書（領事報告）なども併せて調査した。

4. 研究成果

- (1) 第一については、アメリカが日本に開国を要求した最大の理由は二点あったことをより明らかにした（図書①参照）。

第一点は、米中間の太平洋横断のための汽船定期航路開設には、汽船航路経営に不可欠な石炭確保が必要であったが、東アジアで唯一石炭を産出したのは日本であり、日本における石炭供給が太平洋横断航路開設に不可欠の条件であったことを明らかにしたことである。イギリスの東洋航路が航路上に貯炭所網をめぐらしていたのに対して、寄港地の少ない太平洋横断航路の維持には、日本に貯炭所を設置し、石炭を安定的に確保することがとくに重要であったのである。

第二点は、汽船航路が最短コースを選択する場合、鎖国日本が航路上に位置するという点である。

汽船は自然条件にあまり左右されずに、年間を通じた定期的な航海が可能であった。いっぽう帆船は、季節風や海流に影響されるだけでなく、出航及び到着の期日も不正確であり、年間の航海数も少なかった。しかし、太平洋を超えて東アジアに到達する「正確・迅速」な航路を開設するには、汽船航路の特徴を生かせる最短距離の大圏航路が利用される必要があったが、米中間の大圏航路は日本沿岸を通過する。つまり鎖国日本を避ける航路は効率が悪くなるのであり、太平洋横断航路の開設には、日本の開国が不可欠なのである。

- (2) 第二については、日本の石炭は汽船航路の開設にとって生命線ともいべき重大な価値を有していた。とくに高島炭は炭質が均一で熱量が高いため、世界最高のカーディフ炭には及ばないものの、イングランド炭やウエールズ炭に匹敵し、オーストラリア炭や中国炭より良質で、長崎の石炭貿易の最上級品と評価されており、19世紀後半期を通じて東アジア市場の8~9割を占めていたことが判明した。

これらの石炭は、東アジア市場に來航し、域内を航行する欧米汽船に供給され、その活動を支えていた。そのことは、交通革命の伸張において日本炭が必要不可欠であったことを証明している。

引用文献

- ①加藤祐三、黒船前後の世界、岩波書店、1985

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

- ①小風秀雅、アメリカの対日開国戦略について-太平洋横断汽船航路の開設と日本の開国、交通史研究、88号、2016、46~53

〔学会発表〕(計1件)

- ①小風秀雅、世界史の中の明治維新 - 不平等条約とは何か -、奈良女子大学明治150周年記念連続公開セミナー、2018.9.15

〔図書〕(計3件)

- ①小風秀雅、世界史の中の明治維新、小路田泰直編『明治維新とは何か?』東京堂出版、2018、76~110
- ②小風秀雅、『帝国』と明治維新、『講座明治維新12 明治維新史研究の諸潮流』有志舎、2018、139~174
- ③小風秀雅、大石一男、条約改正交渉をめぐる国際関係、『講座明治維新6 明治維新と外交』有志舎、2017、249~288

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

(2) 研究協力者

なし